

2020年度 第4回運用容量検討会 議事録

日 時：2021年2月12日（金） 13：30～15：30

場 所：Web 開催

出席者：

- 阿彦 幸一（北海道電力ネットワーク株式会社 工務部系統運用グループリーダー）
- 上石 晃（東北電力ネットワーク株式会社 電力システム部給電グループ課長）
- 菊田 正雄（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
- 甲斐 静治（中部電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統技術グループ課長）
- 山田 義徳（北陸電力送配電株式会社 電力流通部系統運用・保護チーム統括課長）
- 沢井 一智（関西電力送配電株式会社 系統運用部系統技術グループチーフマネージャー）
- 保田 創（中国電力ネットワーク株式会社 系統運用部系統技術グループマネージャー）
- 鍋島 晃（四国電力送配電株式会社 系統運用部給電グループリーダー）
- 中澤 雅明（九州電力送配電株式会社 系統技術本部電力品質グループ長）
- 飯塚 俊夫（電源開発送変電ネットワーク株式会社 変電・系統技術部系統技術グループリーダー）

事務局

- 石井 幹也（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 田治見 淳（電力広域的運営推進機関 運用部担当部長）
- 多田 光伸（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 田中 孝明（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 寺島 正浩（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 後藤 光（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 山内 賢一（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 中澤 佳経（電力広域的運営推進機関 運用部）

配布資料

- 1-1 2021～2030年度の運用容量（年間・長期）算出における主な見直し事項
- 1-2 2021～2030年度の連系線の運用容量（年間・長期）
- 1-3 各連系線の運用容量算出方法・結果
- 1-4 設備停止時の運用容量について
- 1-5 2021年度・2022年度 連系線の運用にかかわる平日・休日カレンダー
- 1-6 運用容量を休日相当として扱う日について～2021年度・2022年度～

議題1：2021～2030年度の運用容量公表資料について

事務局から資料1-1を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：P8、東北東京間連系線（東京向）下げ代不足が想定される特殊日の運用容量については、実需給に近づいた断面で、年間に比べて需給バランスの想定が変わった場合、2021年度GW、2022年度GW想定値よりも、運用容量を低下させることは可能という理解で良いか。
- ：想定が大きく変わった場合は下げざるを得ない。ただし、年間以降に連系線運用容量を下げることは系統利用者へ影響を与えるものなので、下げなければならない理由を当機関へ説明いただくと共に、当機関としても公表する必要があるということをご理解いただきたい。
- ：月間、週間、翌々日のどの段階で説明すれば良いか。
- ：早い段階が望ましく、仮に事後になったとしても、当機関への説明が必要である。
- ：年間より運用容量を下げる必要があると想定した場合は、極力早い段階で説明させていただく。

事務局から資料1-2～1-6を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：2021年5月、6月に関西四国間連系設備（阿南紀北直流幹線）の双極停止作業を予定している。阿南紀北直流幹線EPPS制御量を織込んでいる中国四国間連系線（四国向）の運用容量が20万kW程度まで低下するが、双極停止する期間は数日間と短期間である。資料1-2、1-3において、双極停止時の中国四国間連系線（四国向）運用容量を平常時の値として表記すると系統利用者へ誤解を招く虞があるのではないか。
- ：平常時の値として表記すると2021年5月、6月の昼間帯は全て20万kW程度の運用容量になると誤解を招く虞があるため、双極停止時の中国四国間連系線（四国向）運用容量を作業時の値として表記する。

以上